

2022年12月06日

2023年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答要旨

業績見通しについて

Q：AP事業は2Q（7-9月）の営業利益は赤字となった。今下期は製品の値上げ効果が見込まれるとの説明があったが、下期予想の営業利益で約4億円を3Qと4Qに分けると、どの様になるのかを伺いたい

A：今下期のAP事業の営業利益は約4億円である。3Qと4Qの内訳で3Qは±0億円、若干マイナスとなる可能性もある。4Qは4~5億円の営業利益を見込んでいる。

Q：中計2年目となる来期業績に関して現時点でどのような見方しているのか伺いたい

A：業績には経済環境が一番大きな影響がある。資材の高騰及び電子部品を含めた部材の長納期化など前中計でも非常に影響が大きかったが、現状は一定の落ち着きがでてきている。経済環境がさらに悪化することがなければ、お客様も製品の製造設備であるため放置できないと考えれば、現時点より改善の方向に進んでいくと見ている。

2022年度が恐らくここ10年くらいの期間で見ると、特に利益面で非常に厳しい底の年になると見込んでいる。昨年度から製品値上げをしているが、契約してから売り上げるまで、特にAPの場合は1年から2年、ものによっては2年以上のタイムラグがあり、材料が値上がりすると、その分利益が圧縮される。その影響が来年度にほぼ無くなると見ている。BPに関しては、引き続き業績は好調と見ている。

今後の懸念として、スタートしたばかりのタイの子会社が半期で約2億円程度の赤字がでていることがある。早く、赤字幅を小さくできるように親会社も含めて全面的にサポートしていく予定だが、今のところ来期のリスクはタイの損益と思っている。

全体的な業績数字として、来期は今期比で増収増益の予想数字と思っている。

Q：「日エッセ」が活況との説明があったが、今後の業績に対する影響を伺いたい

A：展示会「日エッセ」はコロナ禍の影響があった中、1,126名と非常に多くのお客様にお集まりいただいた。今回展示した新型の大型APは見た目として、それほど斬新でない

がユニット構造としており、現地の工事期間をユニット構造で積み木のように組み立てることで短縮ができる。非常に高い評価を頂いており、商談が具体化した案件もでている。定量的な受注数字はだせないが、定性的には主力製品だけでなくグループの各製品に対する引き合いも多くでている。お客様には展示した製品に興味を持っていただき、受注数字的にもいい方向になると思っている。

Q：2030年度に脱炭素関連製品の売上高を40億円の目標だが、その営業利益率はどの程度をイメージしているか。全社目標の利益率10%に対してどうかを伺いたい

A：現在、カーボンニュートラルに向けて様々な研究開発を進めている。手近なところではアスファルトの温度を下げる取り組みの装置であり、最終的には水素やアンモニアのような燃料転換も起こり得ると考えて、その開発を進めている。

お客様に付加価値を認めていただける装置ができれば、全社目標の営業利益率10%より少し上の利益率を頂けると考えている。これからのエネルギー供給で不確定なところもあり、どの製品がニーズにあった装置か具体的な数字はだすことはできないが、当社が唯一とも言える装置や、特殊性を認めていただける装置に関しては利益率の確保に努めたい。

今後の設備投資について

Q：説明会資料の9ページにある設備投資60億円の詳細について、新工場建設5億円、開発テストセンター10億円の狙いと場所などを教えて欲しい。また、残りの設備投資45億円は何に当ててるのかも伺いたい

A：設備投資の具体的な内容についてであるが、新工場建設5億円、開発テストセンターの10億円のいずれも、会社として最終的意思決定をしたものではない。新工場についても大きなものを考えているわけではない。

具体的に新工場は近隣の協力業者において、後継者難で徐々に廃業されているところが増えている。今後、後継者がいなくて事業を止めざるを得ないという協力会社さんに対して場所を当社で提供し、我々が中心になって協力会社を集める形でサポートしていく工場を作る構想だが、具体的な場所や時期は決まっていない。

開発テストセンターについては、戦略的に研究開発費だけでなく陣容もここ数年で大幅に増やしてきた。この部門の陣容を収容することと、簡単なテストを行うことを目的に、本社工場内の敷地に開発テストセンターを建てることを計画している。

残る設備投資 45 億円についてだが、現時点で具体化している大きな案件は無い。前中期経営計画の設備投資額 63 億円に比べて、今中計の 3 年間で 60 億円の計画としたが、やや少なくなると思っている。前中計はタイへ非常に大きな投資をしたが、現中計でそのような大きな案件はないため、60 億円までいかない可能性もある。但し、設備機械を始めとして、合理化、生産性の向上につながる投資は着実にやろうと考えている。

(注)本質疑応答要旨は決算説明会に参加されなかった方への情報提供も含めておこなっていますが、その内容につきましては理解し易いように一部で加筆・修正していますことをご承知おき下さい。

日工株式会社 財務部 IR 担当